

前嶋眼科（術前の説明） 動画の字おこし

これから術前の説明をいたします。1番2番3番の用紙を使って説明をいたしますので、お手元にご用意ください。これらの用紙は手術が終わる日まで、ここに来られるたびに毎回持って来るようにしてください。まずは1番の用紙で記載された手術日と左右の眼が合っていることを確認してください。また、用紙の一番下をみて、あと一回残っている最終検査の日にちと時間を確認してください。最終の検査の日は受付が必要です。午後からの診察であれば11時40分以降、午前中の場合は7時30分から受付ができます。その日は受付順の診察となります。

手術当日のお話をします。当院では手術は午後からですが、手術の日は午前中にまず1度来ていただいて、診察を受けてからいったん解散をして改めて午後から手術となります。

手術の日と翌日の診察のみに関しては、受付は必要ありませんし、診察券も出す必要はありません。ここに書かれた時間通りに待合室に待っていただければ、担当のものが声を掛けますので、呼ばれましたら診察室に入ってください診察があります。それが終わりましたら、付き添いさんがおられる方は一緒にペアになってもらって、当日の手術説明を聴いていただきます。火曜日も15人、水曜日も15人の手術をするため、付き添いさんを含めると大変混雑しますので、15人の患者さんを時間差をつけて2つのグループに分けて診察や説明をするようにしています。そのグループ分けに関しては後程お知らせいたします。当日の手術説明では手術の順番、術前術後の注意事項、手術室に入ってからの流れ、この3点を重点的に聞いていただいて、大体11時ごろに終わります。11時になったら、外来手術の方は解散して一度帰宅するか、院外にでて外食をしていただいて、手術の始まる1時間前ぐらいの決められた時間にもういちど戻って来ていただきます。その時間は手術の順番が決まってから決まるので、当日お伝えします。日帰り入院の方は病室で昼食を

食べて手術までお待ちいただくこととなります。手術の準備として、瞳を広げる散瞳剤という目薬を入れて1時間くらい待つ必要があります。瞳が広がらないと手術がしにくいのでとても重要な時間です。瞳孔が開いてから順番が来ましたら、手術室で手術を受けて眼帯をして退室します。この状態で30分間休憩をとってもらって、眼帯をしたまま帰宅します。そして一晩過ごしてから、翌日の8時20分までには来てください。看護師が眼帯を外して処置をして、9時になったら診察があり、大体10時から10時半ぐらいに退散します。両眼の手術をされる方は、また改めて昼から来てもらって、前日と同様に、準備して手術をしてから30分休んで帰宅します。一晩過ごしたのち、次の日の木曜日8時20分に来て、眼帯を外して処置をして、9時になったら診察があります。両眼手術された方は木曜日にまとめてお支払いとなります。

手術の傷口は目の上のほうにあって、2mm程度のごく小さいものですが、縫合もしませんし、眼帯も一日しかしませんので、やや無防備になります。そのため術翌日から1週間ぐらいは保護メガネを使っていただくことにしています。保護メガネはこちらでサイズを見て3000円くらいで販売していますが、他のお店で買ってもらったものでも構いません。手術当日は眼帯をすることになりますので、眼帯をしていても着替えやすいような前開きの服などで来るようにしてください。化粧も乳液程度にとどめて、あまりしないようにお願いします。持ち物についてお話しします。① 時計とティッシュを持って来るようにしましょう。当日は目薬を入れる時間を指定しますので、時計は時間がわかるためのもので腕時計でも携帯でもよいです。ティッシュは目薬の後に拭くため、ポケットティッシュなどをご用意ください。② 術前3日前から点眼している抗菌薬の目薬。目薬は最終検査の日に説明してお渡しします。手術3日前からさし始めて当日もさす必要がありますので、ご持参ください。他の病院で処方されている薬は基本的に継続していただきます。昼食後内服する必要があるものは持ってきておいてください。それから手術が終わったら3日ほど顔を洗ったりできませんので、手術前に顔を洗っておくとよいでしょう。歯

ブラシとタオルはそのためです。当院は一階は土足ですが、2階の病室、手術室は土足禁止になっていますのでご注意ください。患者さんは安全のためスリッパを使わず靴下のままのほうがよいでしょう。

二番目の用紙を見てください。白内障手術が終わったあとの生活の事です。手術が終わった日の夜から生活の制限が始まります。2週間の制限がありますが、2週間のうちのはじめの三日間が特に大事です。術後には、目は押さえない、こすらない、汚さないの三つを守るようにしてください。4日目の日曜日から、車の運転、家事、散歩、買い物、仕事に復帰、ほかの病院に受診、お化粧、飲酒などができます。本人が行動できるのは4日目からです。2週間目までは制限がありますので、歯医者予約をとるとかプールや温泉、パーマ、毛染め、散髪などはその後に行いましょう。手術後に何か予定を立てるときは、この用紙を参考にしてください。これらのことは主に傷口から感染を起こさないための養生です。一週間は寝るときとお風呂に入る時以外は保護メガネをするようにしてください。テレビを見たり、本を見たりは翌日から普通にできます。しかし、見えるようになってもかたづけや掃除を急いでしないようにしましょう。

受診予定についてです。手術が終わったら3カ月間は受診しないといけません。1番の翌日というのは、火曜日の手術なら水曜日、水曜日の手術なら木曜日のことです。その日は8時20分までに受診してください。受付は必要ありません。2番目の3日目というのは、土曜日。片目だけ火曜日に手術される方にとっては金曜日になります。この日からは普通に受付をする必要があります。3番目の1週間後というのは、必ず7日目でも結構ですが、翌週の木曜日金曜日土曜日のどちらかに受診してください。あとは手術日から数えてほしい1か月後、2か月後、3か月後に受診してください。その間は目薬を使うことになります。紹介をいただいた他の眼科や、近くの眼科に通院したい方はいつでも紹介状を書かせていただきますので、術後3か月までは眼科に通院するようにしてください。

次に3番目の手術の説明の用紙を見てください。どのような手術をするのかの説明をいたします。白内障手術は個人差はありますが大体10分間位で終わります。この図は眼の断面を横からみた絵です。角膜という黒目があって黒目の奥に瞳があります。瞳の奥に水晶体があってそれが濁ってくるのが白内障です。水晶体は薄い袋に包まれています。その袋の一部を丸くくりぬいて、なかの濁ったものを超音波を使って砕いてすべて吸引をして、残った袋の中に眼内レンズをいれるのが白内障の手術です。眼内レンズはいったん挿入すればまず取り換える必要はありません。眼内レンズの度数は自由に決めることができますので、眼鏡なしで遠くが見えるようにすることも、近くが見えるようにすることもできます。ただ、遠くが見えるようにすれば近くを見るために老眼鏡が必要になりますし、近くが見えるようにすれば、遠くをはっきりみるためには眼鏡をかける必要があります。基本的に術後は水晶体が透明になってよく見えますので、ほとんどの方はそれで満足されていますが、どうしても遠くも近くも眼鏡なしで見たいという方には、保険外で高額ではありますが、多焦点レンズというものもありますので、ご相談ください。眼鏡が必要な場合は、だいたい1か月後に処方しますが、今までの眼鏡の度数と大きく変わって、とりあえずの生活に不自由を感じるようになったかたには、貸し出し用の眼鏡もありますし、早めに術後1週間くらいで眼鏡を処方することもあります。白内障の手術を受ければ、ほとんどの場合はよく見えるようになりますが、緑内障や他の眼底疾患、角膜の状態により思ったように見えない場合もあります。術前検査でそのようなことがわかっている場合は、事前に医師より話をされていると思いますが、白内障が強い場合は眼底も見えにくいので眼底疾患が事前にわからないこともあります。手術に関する合併症については、3番目の用紙の後半に書いています。ここでは詳しく説明しませんので各自読んでおいてください。特に眼内炎は最も避けたい合併症ですので、術前の点眼、術後の養生をよろしく願います。

白内障は顕微鏡を使って手術しますので、仰向けになって手術を受けることになりま

す。手術は局所麻酔なので、意識はあって周りの話は聞こえますし、声を出すこともできます。手術中に痛みとか、咳がでそうとか、何かありましたら、声を出して知らせてください。声を出せなければ、手をおく台を軽くたたいて知らせてください。目の中に器具が入っているときに、急に動かれると危険ですので、キョロキョロしたり急に動かないようにしましょう。手術は痛いことはふつうありませんが、痛みに関しては個人差があるので、痛いと言っただければ麻酔を追加します。不安感の強い方は手術中に鼻から酸素と笑気を吸ってリラックスできるような低濃度笑気麻酔という方法もありますのでご相談ください。それでは、手術まで体調を崩さないように気を付けましょう。ご清聴ありがとうございました